

田中勝先生のご退職にあたって

To Commemorate Professor TANAKA, Masaru Retirement

原 仁司*

HARA, Hitoshi

田中勝先生は、平成27（2015）年3月31日をもって、亜細亜大学経営学部ホスピタリティ・マネジメント学科を、定年でご退職されます。本学科および専攻の設立以来、8年間の長きにわたり非常勤講師としてご尽力をくださったこと、心より御礼申し上げます。

田中先生は、昭和43（1968）年3月に早稲田大学第一政治経済学科をご卒業された後、西武鉄道株式会社に就職しておられます。45年には株式会社プリンスホテルに移られ、以後、ホテルマンとしての道を歩まれます。その歩みは、他業種の私の目にも誇らかで、輝きを放っています。26歳の若さでカナダ、トロント市にホテルプロジェクト要員として派遣されて以後、副総支配人に任命、帰国後も赤坂プリンスホテルの副総支配人また迎賓館担当支配人を兼務し、天皇陛下ならび多くの国賓の接遇に直接あたられました。平成4（1992）年、株式会社ホテルインターコンチネンタル東京ベイの総支配人、平成7（1995）年には横浜インターコンチネンタルホテルの総支配人として辣腕をふるわれます。世界的に著名なインターコンチ

ネンタルホテルズで、アジア人として初の総支配人に任命された田中先生の業績は、「亜細亜」という名を冠する大学に所属する者としても、たいへん誇らしさを感じます。

田中先生は早稲田大学の卒業生ということで、私の先輩にあたります。ひと回り以上、年齢がはなれていますから大先輩と申すべきところです。上記の如き業績を聞くまでもなく、おのずからその存在感の重みが伝わってきます。いまでも初対面のときを憶えています。先輩後輩などという俗っぽい甘たさは一切そなえていない方だということが、すぐに伝わってきました。それでいて、学生たちの評判はとても良い。学生たちの田中先生に対する態度は「畏敬」という言葉がまさにふさわしい、しかも圧服ではなく崇敬、そういう印象でした。田中ゼミには優秀な学生が多いという評判も、諾なう哉でした。お会いするといつも、言葉の端々に厳しさと凜然たるものが沁みており、学生たちへの感化を思うと、田中先生を失うことは文字通り本当に「勿体ない」こと、軽佻なこの時代において得難い人の存在を失う、そんな想い

*本学経営学部長

にかられてしまう次第です。

本学科は、28年度にはリニューアルして、スポーツ・ホスピタリティの分野を強化する予定になっていますが、もちろんホテル領域をふくむ他の領域も、さらに進展させてゆかねばなりません。願わくは、もう少し田中先生には本学にいていただきたかった。そして、今後ホスピタリティ分野に求められるさらなる要素が何なのかを教えてくださいました。私からもっともっと話しかけるべきでありましたのに、そのことに気づくのがあ

まりにも遅すぎました。しかし、それも贅沢な悩みだといえるのかもしれませんが。

願うても又なき花の旅路かな——井月

田中勝先生、本学科のいしずえを築いてくださいました充実の8年間でした。深く感謝を申し上げますとともに、これからの先生のますますのご活躍とご健勝を、心より祈念申し上げます。

(平成26年12月末日)